

遙かなる夙雪

実録・柴田音吉洋服店

(20)

リーダーシップ——数々の公職を歴任

らやめられないといわれるほど面白いものだったという。

商売そっちのけとまではいかないが、店中が選挙本部であり、社員のすべてが選挙員だった。この選挙のためにわざわざその道の腕きを社員に入れる熱の入れよう。戸別訪問などは序の口、秘策を練ってライバルと競争、陽気にぎやかな選挙戦だった。

× ×

服地卸部が大きく成長する一方で、柴田の洋服部もまた充実していった。白崎チーフ・カッターは欧米仕込みの優れた技術者だったが彼は松坂屋の勧誘を付けて柴田に入社した強者である。

かなり高額の給料を示した松坂屋側は、何故こんないい条件を受けられないのかと怒ったらしい。柴田の条件の方がそれよりさらに良かったのである。当時官選知事の給料は年俸3,000円。白崎カッターの給料はそれより600円多かったというから松坂屋がカブトを脱いだのも無理はない。

彼ははじめ欧米式のフィットした背広を作ったが、これは失敗。全部なおして戻ってきた。きゅうくつで着られないという。そこで改めて初代以来の“ゆったりした”柴田式を取り入れ、日本人向けのスタイルをあみ出していった(つづく) 岡 和子記者

神戸商工会議所議員に当選、大喜びの二代目音吉(前列右)



公職を歴任する人物というのは共通のタイプがあるようだ。まず使命感をもっている。そして少なくともその任が嫌いではない。後天的にリーダー・シップが役割性格として身につけている。

2代目音吉もそういうタイプの人物であった。

彼は国際的な活躍の一方で国内的にも数々の公職を歴任した。

大正8年7月神戸羅紗商組合組長に就任したのがその最初で、まだ32才くらいのときだ。この組長の椅子にあったのは長く、昭和8年1月に辞任するまで続いた。辞任とともに顧問に推挙されている。

大正10年1月には関西羅紗商協会の理事に選任、2年後の4月には日本羅紗商協会西部理事になっている。

羅紗分野ではその後昭和7年に大阪羅紗商同業組合評議員にも選任された。羅紗業界につくす一方、洋服分野でも彼は公職を兼任した。

大正15年2月に神戸洋服商組合組長に選任され、昭和9年2月辞任、顧問となるまでこの職務にあった。

昭和2年10月には西日本洋服商組合聯合会副会長に当選

し同7年5月に会長に選任された。関西の羅紗、洋服両業界の実力者であるとともに、組合行政のリーダーだったことがこれを見てもわかる。

しかし組織化まもない組合行政は決して面白いものではない。大戦にともなう経済界の変化や、業界機構の変動など頭を悩ます問題は次ぎつぎに起った。

だから彼が本当に心から喜んで就任した公職は、業界のそれではなく、日仏協会の会長と商工会議所の議員の職であったろう。

音吉は大正14年3月神戸商工会議所の議員に当選、以後3期にわたって常議員に選任されている。このときの当選祝賀会の彼の様子はまさに天眞らんまん子供が優等賞をもらったような喜びようだった。当時の選挙は、一度やった